

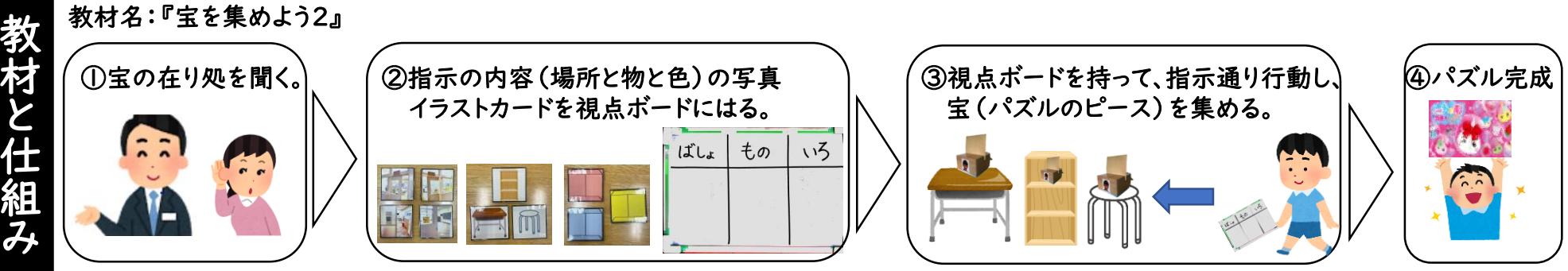


小学部 国語科 一題材の実践事例

題材名：『宝を集めよう2』で、宝の在り処を聞き取り、その場所に行って宝を集めよう

授業者：藤本 浩二

学習指導要領の段階と内容 小学部 2段階 A 聞くこと・話すこと 知・技：ア(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。 思・判・表：イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。 学 び：言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	題材目標	知・技 『宝を集めよう2』で、宝の在り処を聞く時、聞き取る視点がわかり、聞き取った言葉の写真やイラストカードを視点ボードの「場所」「物」「色」の位置にはったり、不足している視点について聞き返したりする
		思・判・表 宝の在り処を聞く時、聞き取った言葉の意味を考え、宝を探すために必要な視点を判断し、不足している視点について聞き返したり、宝が入っている封筒を持って来たりする
		学 び 宝の在り処を聞いて不足している視点について聞き返したり、宝を集めたりする課題に繰り返し正しく取り組む



観点別評価	知・技 教師の言葉かけを聞いて、聞き取った言葉の写真やイラストカードを、視点ボードの「場所」「物」「色」の位置にはることができた。
	思・判・表 教師の言葉かけを聞いて、聞き取った言葉の意味を考え、写真やイラストカードを視点ボードにはり、宝が入っている封筒を持って来ることができた。
	学 び 宝の在り処を聞き取ったり、不足している視点について「何色の封筒ですか」などと聞き返したりして、宝を集める課題に繰り返し正しく取り組む姿が見られた。

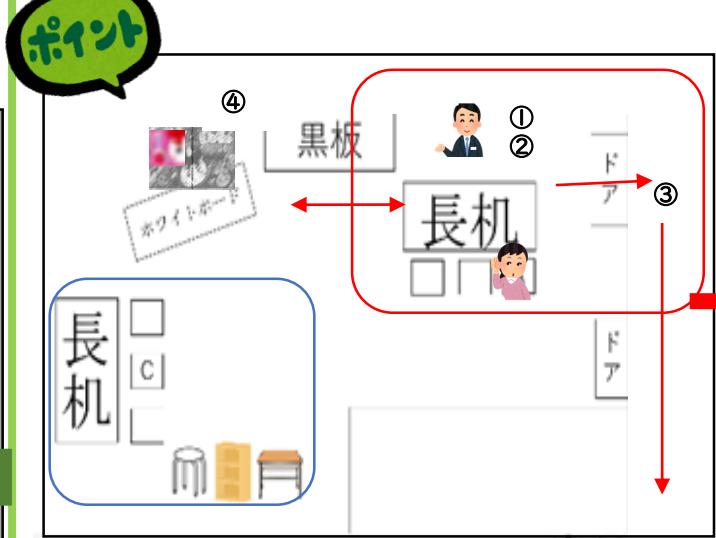
関連する授業づくりの手順

知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

教材の仕組みを決定する

学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

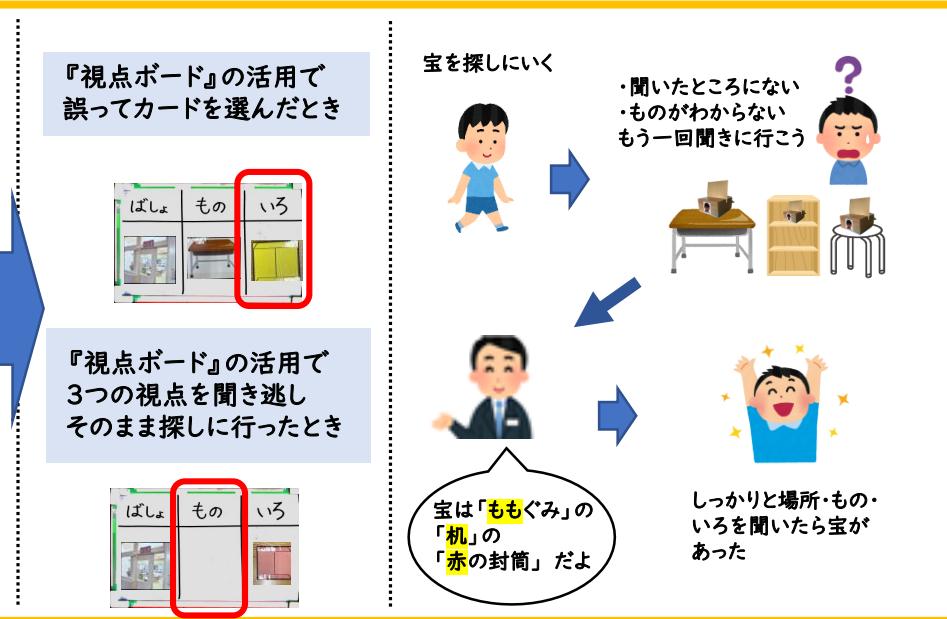
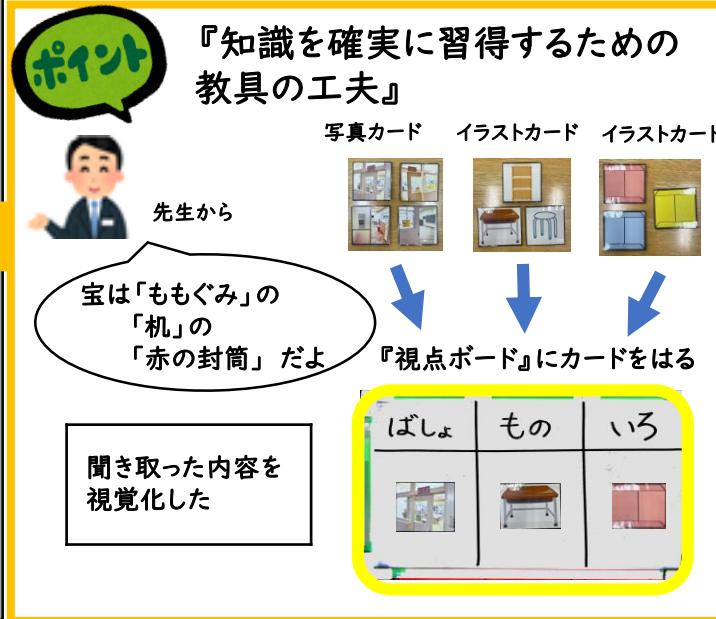
R研で毎時間の授業の評価・改善



『主体的に活動できるようにするための場面設定』

児童が主体的に活動することで、宝の在り処(場所、物、色)を聞き取って宝を探す活動の回数を十分に確保できるように、図のように活動ごとに場所を分け、スムーズに活動するための動線を設定した。

【活動の順序】
 ①指示を聞く ②聞き取りボードに聞き取った視点及び言葉の意味を表すカードを貼る ③宝を取ってくる ④パズルの台紙にはる
 活動の順序がわかり、パズルが完成していく様子を見ることで、自分から宝の在り処を聞きに行く姿へつなげることができた。



考察

○前題材の『宝を集めよう1』では、個別学習になりがちであったことから、児童の待つ時間が長く、試行数の確保が難しかったり、児童の活動が受動的になったりしていた。
 →場面設定や動線の工夫、グループの児童に対する並行的な働きかけの実施、一次で教材の仕組みの理解に指導の重点を置くなどの改善を行ったことで、児童が主体的に学習に取り組むようになり、試行数の確保につながったと考えられる。

○聞き取った内容を視覚化することで、宝の在り処を聞いて宝を集めることができるようになっただけでなく、不足している視点について聞き返すこともできるようになり、「課題を解決する力」を養うことにつながったと考える。